男女がともに輝くために

共に輝くみほの会
－美浦村女性行政推進協議会－

問合せ　企画財政課
☎029－885－0340(内)209

コロナ禍においての『判断』

中山万律子

私は今、小学生二人と0歳の赤ちゃん、三人の子育て中です。人生は判断の連続とよく言いますが、コロナ禍において子育て中の生活では、難しい判断に戸惑うことがたくさんあります。

昨年の4月、都内の実家で私の両親と共に生活していた祖父、子どもたちにとっては曽祖父が亡くなりました。小学生の息子と娘は曽祖父の死を知るととても悲しみ、お別れをするために会いに行きたいと言いました。私ももちろん、子どもたちと同じ気持ちでしたが、当時、未知である新型コロナウイルスの存在をとても怖がり、初めての緊急事態宣言が発出され、子どもたちは休校、社会人の多くはテレワークを強いられ、移動の制限が呼びかけられている最中でした。また、当時、私は第三子を妊娠中であり、とても悩みましたがリスクを考え、会いに行くことを断念しました。

行かなかったことで感染のリスクは減らすことができ、いわゆる自粛のマナーは守れたかもしれない。でも、もし行っていたら、感染のリスクを負いながらも、子どもたちには曽祖父の死を間近で感じ、受け入れ、理解させてあげることができたかもしれない。どちらの判断がよかったのかは今になってもわかりません。ただ、どちらの判断であっても見る角度が違えば正解にも不正解にもなる。だからとても難しいのだなと感じました。そして、つい自分と異なった判断や行動を見ると、それらは不正解だと決めつけてしまいがちですが、それらを正解の角度からも見ることができる、冷静さと心の広さを持つことが大切だと感じました。

誰にとっても貴重な歳月ですが、子どもたちにとっては特に変化の大きい日々が、新型コロナウイルスの影響を受けながら過ぎています。祖父が亡くなった当時、私のおなかの中にいた息子は昨年の夏、世間が第二波のピークの真っ只中に生まれ、この夏には一歳になります。彼はまだコロナ禍の世の中しか知りません。学校行事だけに関わらず、できるはずであった経験が、できないまま育っていく子どもたちの心身への影響を考えると心配になることもあります。子どもたちは多くの事を自分で判断することができないので、私たち大人が子どもたちに代わり、日々、悩みながらもより良い判断ができるようにしようと思う毎日です。早く安心して過ごせる日常に戻ることを祈りながら…

美浦村女性行政推進協議会(共に輝くみほの会)では、活動を共にできる会員を随時募集しています。
■問合せ　企画財政課

みほ文芸

正調俚謡　日和吟社　折り句「ご(こ)・が(か)・つ・○」(病句禁)

ここが試練のカルガモ親子ついに決行お引っ越し　山崎笑子
言葉少なく会話も減るが尽し尽され共白髪　山岡亜子
声を揃えて会話をしてる月夜田んぼの蛙達　上野八千代
コロナ蔓延叶わぬ遠出尽きぬ想いの故郷の四季　門脇悠美
怖い昭和の頑固な親父強くいられたあの時代　石戸葎華
コロナ蔓延叶うか五輪募のる不安の関係者　伊藤葉子
越えた山坂我慢と覚悟ついに勝ち得た幸の花　小薗江久美
黄砂予報にガラス戸締めて漬菜茶うけの家ごもり　田島草実
御用市井の学者の皆が積もる不安を煽るのみ　井戸賀鮮道
コロナ時短が家計にひびくつかぬ見通し気が滅入る　篠原美千代
ごめん！言えない頑固な父と常に寄り添い母往生　関根秀子
コロナワクチン頑張る街に次は五輪の風が吹く　塚本夏雲
ここは美浦村快適暮し終のすみかで八十路生く　長谷川悦子
五臓六腑にがちんと浸みる妻のお酌で祝酒　高橋一歩
子猫つかまりガラス戸叩き燕飛ぶさま知らせてる　酒川夢花
恐いコロナは躱わさにゃならぬついに打てるぞ防護薬　増尾青蓮
コロナいすわり会話はマスク終に外して深呼吸　沼嵜朋香
コロナなければ海外旅行ついたうそでも大丈夫　山崎泰弘
転ぶたんびにかすんだ眼疲れ体の俚謡作り　飯塚筑風
子宝恵まれ課題を超えて継ぐ命に只感謝　山岸錦洋
五輪迫った開催決議つかむ切符は揺れ動く　木村幸子

六月の俳句（題　当季雑詠）　**(五十音順)**

張り替えし網戸を青き風通る　青野安佐子
菖蒲湯やまなこ閉じればジンタの音　石毛恵美子
鰹食らう相手病みたりひとり酒　市川紀行
スマホ手にワクチン予約夏は来ぬ　海道民子
夏野菜食べたいけれど値の高し　木澤はしめ
断捨離や五月人形お焚上げ　小林美佐恵
夏帽子帰る孫へと大振りに　高柳幸子
朝採りのキヌサヤを下げ旧友来たる　田島早苗
彼方此方に蛍袋の灯びや　中島輝子
まどろみて頬にやさしき初夏の風　長田敏笑
爽快に谷に広がる草刈音　増尾尚子
縺れ相カップル蝶の舞い何処　松本秀子